

2017年10月6日



地域がみえる。地域がわかる。

ホーム 市政 社会 教育 暮らし 文化 スポーツ コラム NEWSつくばとは お問い合わせ

いばらき腎臓財団に第一生命保険「保健文化賞」 賞金200万円



「非常に意義あること」 大島慎子学長が
応援メッセージ

NEWSつくばからのお知らせ

NEWSつくば記者ら 茨城放送ラジオで
抱負語る

「私も髪を伸ばしてます」 ひきこもり支

臓器移植の普及や啓発に取り組んでいる公益財団法人いばらき腎臓財団（つくば市、理事長・山縣邦弘筑波大学腎臓内科学教授）が、第一生命保険主催の「第69回保健文化賞」を受賞した。腎臓財団が2008年度から続けている子どもたちへの「いのちの学習会」活動が高く評価された。贈呈式は10月12日、東京・帝国ホテルであり、賞金200万円が贈られる。年間の事業費規模が約900万円の財団にとって、大きな支えとなる。

第一生命保険によると、保健文化賞は1950年創設と歴史があり、近年は、生活習慣病対策、高齢者・障害者への福祉、海外医療や疾病対策などに継続的に取り組んできた個人・団体を顕彰している。今年度は個人6人、団体はいばらき腎臓財団を含む9件が受賞した。厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団が後援している。

評価された「いのちの学習会」は、小中学校や高校に出向いて開いてきた。臓器移植への理解を深め、自分や他人の命を尊重する心を育んでもらうのがねらい。筑波大などの医師や看護師、腎臓財団職員らが移植医療の現状を伝えるため、臓器移植の仕組みを学ぶDVDを見せたり、さまざまな移植の事例を紹介したりする。移植する側、される側双方の家族らが直接話すこともあった。

児童・生徒には、生後間もない赤ちゃんの実物大の人形を抱っこしてもらい、人形と自分を比べて成長を感じることで「生きること」や「命のつながり」について考えたり、感じたりしてもらっている。

学習会は08年度から15年度までに県内の33小学校、19中学校、27高校で開催された。16年度には15年度の1.5倍近い延べ32回に増えたという。腎臓財団のスタッフは「一人でも多くの方々に臓器移植医療に関心を持ってもらえるよう、今後も地道な活動を続けていきます」とコメントしている。（米内隆）

腎臓財団事務局は電話 029・858・3775、「いのちの学習会」の申し込みは infoiba@iba-jinzou.com